

NPO 法人ハートセービングプロジェクト

# 平成 30 年度年次レポート

[第 11 期年次総会]

## 議事

議案 1. 平成 30 年度事業報告

議案 2. 平成 30 年度活動計算書報告

議案 3. 平成 31 年度事業計画

議案 4. 平成 31 年度活動予算

議案 5. 定款 第 12 条の変更の件

議案 6. 任期満了に伴う役員人事の件

会場 貸会議室 AP 品川 7階会議室

住所 東京都港区高輪 3-25-23 京急第 2 ビル

電話 03-5798-3109

日時 平成 31 年 4 月 21 日 (日曜日) 午後 17 時 00 分～午後 18 時 00 分

## 平成 30 年度事業報告総括

2001 年に初めてモンゴルへ渡航して先天性心疾患児の診断と治療を行ってから、2018 年で 17 年を経ました。これまでに治療カテーテル件数 630 例、診断カテーテルを含めると 763 例を数えます。2014 年以降はモンゴルの医療関係者への教育に重点をおいて活動し、その成果として一昨年、昨年と年を追うごとに現地医療関係者が急激に成長していることを実感しております。

平成 30 年度は 2 か所のモンゴル地方検診と 3 回の首都ウランバートルでの小児の先天性心疾患患者の検診・治療活動に加え、3 回目のウズベキスタン国治療活動を実施いたしました。モンゴル地方検診は 4 月末～5 月 1 日に 5 年ぶりにバヤンウルギー県、8 月には 10 年ぶりにゴビアルタイ県で実施しました。検診の様子につきましては、後ほどの各事業の内容と成果をご覧ください。地方検診は 2015 年をもってモンゴル全県訪問を達成し 2016 年から二巡目に入っております。

また昨年 7 月の小児循環器学会の企業展示ブースに初めて出展し、活動の紹介を行いました。ハートセービングプロジェクトの会員の方々はもちろん、多くの来場者の方々が関心をもってブースを訪ねてくださいました。

教育事業としては、5 月に実施されたアジア国際小児医療学会（香川 四国こどもとおとなの医療センター）へのエネレル医師（モンゴル国立母子保健センター）の参加をサポートしました。

救急車事業につきましては、昨年に広島市から譲り受けた救急車 2 台を平成 31 年 1 月にモンゴル国の各病院へ寄贈いたしました。

本年度もハートセービングプロジェクトへのみなさまのご支援とご協力を是非とも賜りますようお願い申し上げます。みなさまのお気持ちを大切に現地へ届けてまいる所存です。

理事長  
羽根田 紀幸

## 議案 1 平成 30 年度事業報告資料

### 平成 30 年度実施の各事業の内容と成果

#### 1. モンゴル渡航治療支援活動

##### ○ 5 月モンゴル渡航治療支援事業（バヤンウルギー県地方検診、カテーテル治療活動）

日程＝4 月 30 日～5 月 6 日

渡航人員＝医師 9 名、ME 1 名、事務局 1 名 合計 11 名

##### （1）バヤンウルギー県地方検診



医師 4 名 ME1 名は到着翌日の 5 月 1 日にモンゴル国立母子保健センターでカテーテル治療前の心エコー診断を行い、到着 2 日目の 5 月 2 日早朝にウランバートルを出発、国内線でバヤンウルギーに入りました。母子保健センターからボロルマー医師、HSP モンゴリアから 3 名が同行しました。途中、風雪がひどく手前の空港に緊急着陸し、代替機の到着を 5 時間待ってさらにフライト、というアクシデントもありました。

バヤンウルギーはウランバートルから西に約 1700km の県で、国境を中国と接しており、さらにその隣にはカザフスタンがあります。鷹匠がいることで有名な地方です。前回は 2013 年に訪問しましたが、あいにく狂牛病が流行して移動制限がかかっていたため、多くの患者さんにとって病院に来ることが難しい状況でした。今回はわたしたちの訪問が、2 週間前に地元のテレビとでラジオで報道されており、現地医師も心疾患の疑いのある患者さんに声掛けしていただいていた。カザフ族が 70%と、モンゴル語が通じにくいエリアのため、過去に HSP の活動によりお子さんの治療を受けた親御さんでバヤンウルギーにお住まいのお母さんが通訳のボランティアをしてくださいました。

県立中央病院には 5 年前に国から支給された心エコー診断装置がありましたが、医師らはそれをかろうじて使い方は知ってはいたものの画像を診るには力不足という状態でした。現地病院の心エコー機が使用できるか不明だったため、この度も日本からポータブルエコー機を持参しました。2 台体制で診察も順調に進みました。5 月 4 日までの 2 泊 3 日の活動時間に 129 例のスクリーニングを実施、うち 73 人が問題なし、56 人が心疾患ありで、うち 1 人は手遅れ、2 人は外科治療が必要な状態でした。また、心疾患の方のお薬が入手しづらい状況にあることも今回訪問してよくわかりました。帰りの日も天候が大荒れで、空港に数時間足止めされました。



## (2) カテーテル治療活動



母子センターでは 129 件の心エコー診断を実施。治療カテーテルは 14 例、うち動脈管開存 (PDA) が 12 例、心房中隔欠損 (ASD) が 2 例。診断カテーテル 6 例という結果でした。

5 月 4 日、国立母子保健センターの院長、大統領とハートセービングプロジェクトとの方針会議が行われました。国立母子保健センターからは、現在のかたちで今しばらく活動を継続してほしいという申し入れがありました。

国立母子保健センターでは、自立して治療が見込まれるケースは自主的に進めることができるようになったため、わたしたちが訪ねるときは重症患者さんのみが待機しているという状況でした。



## ○ 5 月ウズベキスタン渡航治療事業

渡航人員＝医師 2 名

日程＝4 月 27 日～5 月 1 日 (3 泊 5 日)

内容と成果＝



4月27日夜、富田英副理事長と藤井隆成医師がウズベキスタン国タシケントに到着。活動先は昨年同様ヴァヒドフ記念病院です。到着翌日と翌々日の2日間で16例のカテーテル治療を現地医師とともに行いました。ウズベキスタン国は旧ソ連時代の教育の賜物で外科の技術レベルは比較的高いのですが、心エコー診断、治療方針の立て方などについては学ぶべきことは多々あるようです。この渡航での宿泊費、現地での交通費などの経費はヴァヒドフ記念病院がご寄附してくださいました。

## ○ 8月モンゴル渡航治療支援事業（ゴビアルタイ県地方検診+カテ治療班）

渡航人員＝医師7名、看護師2名、事務局1名 合計10名

日程＝8月7日～8月14日

出発日の8日、台風13号が関東地方に接近したため、搭乗予定だったモンゴルミアット航空がフライトキャンセルとなり、そのため急きょインチョン経由でのモンゴル入りとなりました。到着時刻が活動開始日の朝5時となってしまう、その日は参加された方々にとって非常にハードなスケジュールでした。

内容と成果＝

### （1）地方検診 ゴビアルタイ県

ゴビアルタイ県を前回訪問したのは2009年8月でしたので、10年ぶりの訪問でした。ウランバートルの国立母子保健センターからはバトンダラハ先生が同行しました。メンバーは日本医師3名、ナース1名、HSPモンゴルから4名（運転手2名含む）、モンゴル国立母子保健センターから医師1名、さらに駐日モンゴル国大使館から大東亮さんが通訳として加わった合計10名のチームでした。ゴビアルタイはウランバートルから直線距離でおよそ1100km、山地で高度が高いため空気が薄く感じられます。

9日の朝5時にチンギスハーン空港に到着。ホテルにて2時間仮眠ののち10時から母子保健センターで対象患者さんの心エコーチェックを行いました。

翌10日の天気は快晴。国内線飛行機でゴビアルタイ入りし、事前に自動車で移動していたHSPモンゴルの車で病院へ移動しました。ゴビアルタイ総合病院では大変な歓迎ぶり、地元のテレビ局も取材に来ていました。また院内にはハートセービングプロジェクトを紹介するポスターも貼ってありました。事前に地元テレビとラジオが広報しており、検診日は大勢のお子さん連れのご家族が集まっていました。

2泊3日の検診活動で136人の患者さんを検診、うち110人が健康、心疾患の診断が26人、うちハートセ

ーピングプロジェクトでの治療が見込まれて今後の引き継ぎがされたのが7人、19人が外科的治療を要する心疾患という結果でした。2日間ともに診察終了後、全体カンファレンスを現地医師とともに行いました。現地医師らからは質問がたくさん飛び、また診察を真剣に見入る様子が見受けられました。最終日には、自分たちの向上のためにすぐにでも再訪を望むといった声が多数寄せられました。この病院は成人を診る循環器科医師と小児科医師の関係性が良く情報共有も良くされていたので、こちらからのアドバイスもスムーズに受け入れてくださいました。

この度もGEヘルスケア・ジャパン様からVIVID iqの無償貸与をしていただきました。現地病院には成人用の心エコー機はありましたがこども用でなかったため、この度も大変大きな助けとなりました。改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

## (2) カテーテル治療活動



2018年8月の心カテーテル治療を受けたお子さん、そのご家族とともに

心エコー総数は140例、うち術後フォローが19例、治療カテーテル18例で、内訳は動脈管開存（PDA）9例、心房中隔欠損（ASD）6例、肺動脈弁狭窄（PS）3例、診断カテーテル7例、という結果でした。

現在、外国からの支援は、韓国のソウル大学、北京大学がそれぞれ心臓外科専門病院である国立第三病院で活動しています。

国立母子保健センターでは、自立して治療のできるケースは自主的に進めることができるようになったため、わたしたちが訪ねるときは重症の患者さんばかりです。11日の心エコー44人のうち40人が重症で、今後の治療方針についてアドバイスをしてほしいということでした。

また、今回はナース同士の交流時間を1日持つことができました。院内全体とICU、ナースステーションの見

学をしました。

韓国で研修を受けていたバトンダラフ医師とワーニャ医師は8月に1年間の期間満了で帰国しました。次に韓国での1年研修に行かれるのはエネレル医師ということです。

### ○ 12月モンゴル渡航治療支援事業（カテ治療班）

渡航人員＝医師5名、ME1名、臨床工学士1名、事務局1名 合計8名

日程＝12月21日～12月28日（医療チーム活動は22～24日帰国）

内容と成果＝心エコー診断数は57例、カテーテルは治療カテーテル16例で内訳は動脈管開存（PDA）6例、心房中隔欠損（ASD）5例、肺動脈弁狭窄（PS）が2例、診断カテーテル3例のうち2例は経食道心エコーでした。モンゴル側の技量が上がってきており、私たちが訪問するときに治療対象となる患者さん方はみなさん重症の方ばかりという状態です。富田先生は今回、ユニークなマスクを持参されました。診察や治療に際して、泣き出すお子さんが多いのですが、富田先生のマスクを見て笑ったり、喜んだり、リラックス効果を生んでいました。また、母子センターからの要望で、麻酔科の先生が同行しました。日本の麻酔科医の丁寧さ、細やかさなど、勉強になることが多く、できればまた同行してほしいという声がかれました。



待合室には今回もお絵かきの道具を置きました。公式HPにてお子さん方が描いた絵をいくつかご紹介しますので合わせてそちらをご覧ください。

また、自治医科大学病院血管外科の河田先生が初めて参加され、国立第三病院の医療従事者の指導を行いました。同じく12月に、産経新聞社の明美ちゃん基金が初めてモンゴル国立母子保健センターの視察を行いました。ハートセービングプロジェクトではこれまでにモンゴルで診断を行った患者さん（アリウンゴーちゃん、ウジンちゃん）を明美ちゃん基金に引き継いで来日治療を受けていただいたことがあります。



## 2. 教育事業

2018年5月21日から28日までの8日間の日程で、モンゴル国立母子保健センターの小児循環器科からA.エネレル医師を招聘しました。同医師は、22日に愛媛大学病院、23日に香川病院にて心カテーテル治療現場を含む院内の見学をし、24・25・26日の3日間は四国子どもと大人の医療センター（香川県）にて行われた第4回アジア国際小児医療学会（Asia Medical Conference on Child Health in Kagawa 2018）に出席、発表を行いました。檜垣理事がエネレル医師の発表の指導をし、事務局で来日から帰国までのアテンドを行いました。エネレル医師からはご協力いただいた皆様に感謝しますとのことでした。



愛媛大学病院でのエネレル医師(左) の心カテーテル見学

### 3. 広報活動

<日本小児循環器学会>2018年7月5日～7日、神奈川県のパシフィコ横浜で行われました日本小児循環器学会の企業展示ブースに出展し、ハートセービングプロジェクトのPRをいたしました。学会にご参加の方々がプログラムの空き間の時間に立ち寄っていただきました。また同じ企業展示ブースに出展されたメーカーの方々からも興味関心をもってくださいました。



#### <横綱日馬富士関連イベント>



ハートセービングプロジェクトの会員である第七十代横綱日馬富士公平関が2017年11月に現役を引退され、2018年9月に引退興行が行われました。先立って開催された東京・銀座の日動画廊での絵画展と、9月30日の引退断髪記念大相撲が行われた両国国技館で、それぞれ募金箱を設置させていただき、合計で266,598円の募金が集まりました。

### 4. 救急車・消防車事業

2018年中に広島市から譲り受けました中古救急車の受け渡し式が2019年2月11日、モンゴル・ウランバールの新モンゴル日馬富士学園前広場にて行われました。1台はウヴルハンガイ県ハラホリン中央病院に、1台はブルガン県グルバンブラグ村立病院に寄贈しました。特にグルバンブラグ村には患者さんの搬送に用いることのできる車両がこれまでに全くなかったため、大層喜んでいただきました。





また、東邦大学大橋病院様から中古の車いす 15 台を無償で譲り受け、こちらを国立母子保健センターへ合わせて寄贈いたしました。この事業については、皆さまのご存知のとおり、日馬富士公平氏がハートセービングプロジェクトとタイアップして実施してまいりました。2019 年度も引き続き本事業は継続してまいります。

## 5. ニュース

2018 年 4 月 9 日、かねてウランバートルで富田副理事長が診断を行い「明美ちゃん基金」へ申請を行いました。ウランバートル在住のアヌ・ウジンちゃん（生後 9 か月）が基金の適用を受けることが決定し、母親のハグワスレン・エンフマーさんとともに来日治療を果たすことができました。ウジンちゃんは心室中隔欠損で重度の肺高血圧症も併発、外科手術が唯一の治療法ですが、モンゴルでは乳児の外科手術は医療水準的に難しく、この度の基金へのエントリーとなりました。ウジンちゃんは治療を受けて元気になり、帰国しました。

## 6. 本年度も多くのおみなさまからご寄附をいただきました。ありがとうございました

○ 本年度ご寄附をいただきました団体様は以下の通りです（アイウエオ順、敬称略）。また、このほかに個人の多くのおみなさまからもご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

愛信会かなぐすくクリニック（沖縄県）／医療法人いいつかクリニック（島根県出雲市）／  
有限会社いちご調剤薬局（島根県出雲市）／出雲小児科医会（島根県出雲市）  
／いわたにこどもクリニック（山口県萩市）／医療法人江口内科医院（島根県出雲市）  
／医療法人打田耳鼻咽喉科医院／エドワーズライフサイエンス株式会社／株式会社エムティーサービス  
（大阪府）／株式会社エヌライド（青森県）／大分こども病院（大分県大分市）  
／おおしろ小児科（山口県周南市）／有限会社 小川商事（神奈川県平塚市）  
／医療法人北村内科クリニック（島根県浜田市）／国際ソロプチミスト出雲（島根県出雲市）  
／賀屋小児科（山口県周南市）／医療法人 外科内科山尾医院（島根県出雲市）  
／後藤内科医院（島根県出雲市）／小林クリニック（島根県松江市）／佐田診療所（島根県出雲市）  
／サノフィ株式会社（東京都）／J&M 合同会社（東京都）／すぎうら医院（島根県出雲市）  
／医療法人鈴木小児科医院（山口県宇部市）／全国心臓病の子どもを守る会 島根県支部（島根県出雲市）  
／高梨医院（島根県隠岐郡）／玉名泌尿器科クリニック／津田食品工業株式会社（大阪府）  
／土谷養鶏（株）／医療法人 恒松医院（島根県出雲市）  
／つむらファミリークリニック くみ小児科（島根県出雲市）

／医療法人とうぎ皮膚科クリニック（島根県出雲市）／豊多摩通運 株式会社  
／なでしこレディースホスピタル（兵庫県神戸市）／公益社団法人 日本医師会（東京都）  
／日本小児科医会（東京都）／はまなか皮フ科クリニック（埼玉県朝霞市）／ファイザー株式会社  
／医療法人ファミリークリニックせぐち小児科（鳥取県米子市）／福成会 石黒小児科（高知県土佐市）  
／医療法人北陽クリニック（島根県出雲市）／医療法人ばよばよクリニック（島根県松江市）  
／マザー牧場／医療法人ますたに小児科医院（島根県益田市）／株式会社丸久（福岡県粕屋郡）  
／山田皮膚科医院（島根県出雲市）／嘉村医院（島根県出雲市）

## 平成 30 年度モンゴル渡航治療活動に参加された方々からの声

一部抜粋させていただきました。全文は公式 HP に掲載しましたので、ぜひそちらもご一読ください。

### 愛媛大学医学部附属病院 ME 機器センター 川上千晶

今回、臨床工学技士の私に何かできることはあるのか、自問自答しながらの参加となりましたが、コメディカルがやらなければならないと感じ、また活動に参加したいなど思いながら日本に帰ってきました。これからの人生観が変わる貴重な時間を過ごすことができました。初めてモンゴルに行き、この活動にかかわるスタッフの温かさに触れ、様々な立場の人たちが同じ目的に寄り添いチーム医療を行っていくその一員となれたこと、これからもひとりでも多くの患者さんの診断や治療ができるお手伝いできればと思います。

### 愛媛大学大学院医学系研究科分子・機能領域 小児科学講座 山本英一

ゴビアルタイは 56,000 人の町である。18 歳未満が 2 万人程度で 30% くらいを占める。成人も含めた死亡率はもともとモンゴル全国平均を下回っていたが最近は死亡率も改善し、全国レベルになっているようだ。この県では、年間 1200 人出産する。これには驚いた。

とくに子どもに対して力をいれていると、保健省の方からうかがった。

産科は、股関節脱臼のエコー診断に力をいれており、出産後スクリーニングをしているようだ。

その後病院内の小児関連(小児科病棟、NICU,ICU)を見学させていただいた。日本からいただいたモニターや医療機器をみせてくれた。

ICU では、呼吸障害の児が入院されていた。アドバイスを求められた。心エコーを施行。心疾患はなく、肺が悪い状態であった。

その後、2 部屋を簡単に整理して、心臓検診ができるようにした。エコーは HSP からもってきているポータブル 2 台で施行した。

夜は、現地スタッフと食事を行った。終了後、お酒を飲みながら懇親会も行った。モンゴルの、ゴビアルタイの小児医療、医療全体について話が尽きなかった。

議案 2 活動計算書報告資料

平成 29 年度の会計財産目録と平成 30 年度の会計財産目録

科目	平成 29 年度	平成 30 年度
現金	105,445 円	95,045 円
貯蔵品(切手)	8,734 円	26,116 円
普通預金三菱 UFJ 銀行	10,054,452 円	7,108,673 円
普通預金 ゆうちょ銀行	1,820,795 円	3,703,138 円
普通預金 三井住友銀行	777,089 円	1,229,033 円
りそな銀行	0 円	9,137 円
郵便振替口座	10,000 円	0 円
	12,776,515 円	12,171,142 円

正味財産の増減および当期経常増減額はマイナス 605,373 円でした。

平成 30 年度末の財産のうち指定正味財産(使用目的が限定された寄付金額)は 1,229,030 円です。

これはエドワーズライフサイエンス社からの 2019 年度モンゴルでの地方検診向けの助成金です。

科目		平成 30 年度事業計画金額	平成 30 年度事業報告金額	
収入の部	会費収入	550,000 円	310,000 円	
	寄付金収入	11,000,000 円	10,235,330 円	
	助成金等	0 円	1,405,369 円	
	受取利息	0 円	81 円	
	その他収入	0 円	0 円	
	小計	11,550,000 円	11,950,780 円	
	モンゴルでの物的サービスの受入	1,200,000 円	885,825 円	
	日本での物的サービスの受入	800,000 円	1,204,700 円	
	物的サービスの受入合計	2,000,000 円	2,090,525 円	
収入合計		13,550,000 円	14,041,305 円	
支出の部	事業費	現地で治療支援する活動	5,720,000 円	4,078,632 円
		日本で支援する活動	5,620,000 円	7,968,315 円
		教育事業	50,000 円	70,296 円
		来日治療支援事業	0 円	6,442 円
		救急車輸送事業	1,100,000 円	1,417,279 円
		日本で広報する活動	340,000 円	229,562 円
		事業費合計	12,830,000 円	13,770,526 円
	管理費合計	1,000,000 円	876,152 円	
支出合計		13,830,000 円	14,646,678 円	

## 平成 30 年度 事業別経費

平成 30 年 3 月 1 日から平成 31 年 2 月 28 日まで(施設等受入評価額含む)

事業	内容	日時	実施場所	従事者	支出額
国外 支援 事業	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ 1 班	2018.5.2～5.6	ウランバートル 国立母子保健センター	60 人	1,028,497円
	モンゴル国地方検診渡航事業 ～バヤンウルギー県	2018.4.29～5.4	バヤンウルギー 県立病院	50 人	571,990円
	モンゴル国地方検診渡航事業 ～ゴビアルタイ県	2018.8.8～8.12	ゴビアルタイ 県立病院	50 人	485,145円
	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ 2 班	2018.8.12～8.15	ウランバートル 国立母子保健センター	60 人	1,415,050円
	モンゴル国カテーテル治療渡航 事業～カテ 3 班	2018.12.21～12.25	ウランバートル 国立母子保健センター	60 人	1,413,364円
	救急車寄贈事業 1 月輸送	2019.1～2.15	ウランバートル	30 人	0円
	ウズベキスタン治療渡航活動 第 1 回	2018.4.27～ 2018.5.1	タシケント ヴァヒドフ記念病院	30 人	0円 (現地病院の負担)
国内 支援 事業	交通費(エアチケット含む)	2018.3～2019.2	東京	16 人	4,004,200円
	医療関係消耗品寄付	2018.3～2018.10	東京	16 人	373,700円
	上記を除く渡航事業支援活動	通年	東京	30 人	2,755,001円
	来日治療支援事業	2018.4	東京	30 人	6,442円
	教育事業	2018.3～2018.7	東京・愛媛県	60 人	70,296円
	救急車輸送事業	2018.3～2019.2.8	東京	30 人	1,417,279円
国内 広報	(1) 年間広報ツールの発送	通年	東京	50 人	203,562円
	(2) ホームページドメイン費	年 1 回(寄付)	ウランバートル	30 人	26,000円
現地 事業費総額					4,914,046円
国内 事業費総額					8,626,918円
国内 広報事業 事業費総額					229,562円
管理費経費					876,152円
合計					14,646,678円



## 平成 30 年度収入の内訳

会費	310,000円
寄付金	10,235,330円
受取助成金	1,405,369円
施設等評価益	2,090,525円
受取利息	81円
	14,041,305円

### 施設等受入評価益

施設等受入評価益とは、「無償又は著しく安い価格での施設の提供等物的サービス」のことです。以下の記載分はそのうち「客観的裏付けのある金額計算」されたものです。

なお、施設等受入評価益記載の寄付につきましては、原則、所得税・法人税控除の対象とはなりません。今後、所得税・法人税控除の対象としたい場合がありますら、国税局に個別に相談いたしますのでお申し出ください。

提供者名	金額	内容
Bayangol Hotel様	885,825円	81泊分宿泊費、Bayangol Hotel様との契約書
モンゴル国内 物的サービスの受入合計	885,825円	
エーザイ株式会社様	373,700円	薬剤 標準小売価格による
錦島太郎親方	80,000円	相撲番付850枚、相撲カレンダー50部
千代翔馬関	5,000円	相撲番付100枚
エンフグジル バヤサル様	26,000円	公式HPの年間ドメイン料金
宇佐美写真事務所 事務所家賃	720,000円	契約書による
日本国内物的サービスの受入合計	1,204,700円	
国内外合計	2,090,525円	

※Bayangol Hotel (バヤンゴルホテル) 様とは2015年に契約を締結し、年上限2,000万トゥグルグまで無料宿泊、それを超えた額については両者間で取り決めた金額(通常よりかなり値引きした金額です)を支払うことになりました。

以下のみなさまは金額の提示がなく物的サービスを提供された方々です

以下の方々には「内容」の無償提供をしていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

日付	提供者名	内容
2018.5	ヴァヒドフ記念病院 様	ウズベキスタン渡航治療事業の滞在費及び交通費
2019.211	日馬富士公平様	救急車贈呈式にかかる費用一式

### 議案 3 平成 31 年度事業計画資料

#### <海外渡航治療支援事情>

##### (1) GW モンゴル地方検診班

行先はバヤンホンゴル県です。モンゴル国の南西部に位置し、ゴビアルタイ山脈を誇り、高度が 750～4000m のエリアで、中国と国境を接しています。ここへの前回の訪問は 2010 年 6 月、来院者数は 192 人でした。予定としては 4 月 28 日にモンゴルに入り、直ちに自動車で移動し、その日はハラホリン泊、翌朝移動し昼ごろ現地到着し、その日の午後と翌日に検診活動を行い、終了後、アルワイヘルまで移動、5 月 1 日にウランバートルに戻る予定です。

##### (2) 5 月モンゴルカテ班

4 月 28 日にウランバートル入りし、5 月 2 日までモンゴル国立母子保健センターにて無償治療活動を行います。12 月に引き続き麻酔科医師が同行します。

##### (3) ウズベキスタン カテ班

5 月 3 日から 5 月 6 日の日程でウズベキスタン共和国ヴァヒドフ記念病院においてカテーテル治療活動を行います。ウズベキスタン大使館のご支援でデバイスの輸送をしていただけたことになりました。

##### (4) 8 月モンゴル地方検診班

8 月 7 日に日本を出発し、14 日に帰国、検診地はオブス県で地方検診活動を行う予定です。

##### (5) 8 月モンゴルカテ班

8 月 11 日から 14 日の日程でカテーテル治療を 4 例ほど現地医師と共にを行う予定です。

患者さんの状況により治療内容へ変更の可能性があります。

##### (6) 11 月モンゴルカテ班

11 月 1 日から 4 日の日程でカテ班を実施します。人員構成は少人数制で実施の予定です。こちらの班の目的は、現地医師たちの教育とし、術前術後のカンファレンス、エコーのカンファレンスに重点を置くこととします。

#### <教育事業>

6 月 13 日から 15 日の予定で四国こどもと大人の医療センター（香川県）にて行われる第 5 回アジア国際小児医療学会（Asia Medical Conference on Child Health in Kagawa 2018）への参加を目的に、モンゴル国立母子保健センターからウンドラル医師を招聘いたします。また、11 月 29,30 日に愛媛県で開催されます第 24 回小児心電図学会に同病院のボロルマー医師を招聘いたします。

#### <救急車輸送事業>

- 広島市から救急車 2 台の寄贈のご連絡をいただいております、2019 年中にこれをモンゴルの地方病院へ送る事業を進めてまいります。
- 福井県鯖江市からも継続でこの事業を行うご連絡をいただいております。

議案 4 平成 31 年度活動予算資料

平成30年度 繰越額		12, 171, 142円
会費収入見込額		40万円
寄付金見込額 (国内)		1000万円
物的サービス等受入見込額(国内)		120万円
物的サービス等受入見込額 (現地)		88万円
平成31年度 収入見込合計		1248万円
国内支援事業 296万円	(1)モンゴル地方検診・カテーテル班 5月、8月、冬班 エアチケットを含む交通費 渡航人員のべ 30人	210万円
	(2)ウズベキスタン治療活動 デバイス費用	30万円
	(4)ウズベキスタン治療活動 旅費交通費	30万円
	(5)国際通話料金	13万円
	(6)事務用品、消耗品、保険料ほか	13万円
現地支援事業 (モンゴル) 721万円	(1)現地での物的サービス(バヤンゴルホテル宿泊)	120万円
	(2)現地宿泊費(上限を超えての支払分)	40万円
	(3)現地交通費・宿泊費(地方検診)	70万円
	(4)母子センターへ治療で使用の物品代金25%	370万円
	(5)外注費(現地ボランティア日当)	20万円
	(6)医師免許等事務手数料および関税	15万円
	(7)車両関係費(ガソリン代、レンタカー)	20万円
	(8)出張旅費(食費、水等)	53万円
	(9)その他(通信費ほか)	13万円
教育事業	学会参加への招聘	7万円
国内広報事業	印刷物作成・郵送料など(施設等評価益含む)	25万円
救急車輸送事業	救急車輸送費	110万円
管理費	前年度と同様の内容として	90万円
支出見込額合計		1249万円
次期繰越予定額		▲1万円